



長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

アース
～ 持続可能な未来プラン ～

平成27年度進捗報告書

長岡京市



はじめに

長岡京市では、平成21年4月に“古^{いにしえ}の都”から“環境の都”をめざして、「長岡京市環境都市宣言」を行いました。宣言では「真に環境都市として誇れるまちづくり」をめざし、市民、企業、諸団体と行政が協働して取組みを進めていくこととしています。

その取組みのひとつとして、平成23年3月に市域全体の温室効果ガス削減計画となる「長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～持続可能な未来（アース）プラン～」を策定しました。

この計画では2030年度（平成42年度）までを計画期間とし、市内の温室効果ガスの排出量を1990年度（平成2年度）比で40%削減することを目標としています。

また平成27年11月には国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、国際的枠組み「パリ協定」が正式に採択され、わが国は平成42年度に平成25年度比で26%削減する目標を掲げています。この排出削減目標の達成に向けて、国や地域、企業、国民など多様な立場の主体が連携する必要があります。そして平成23年に発生した東日本大震災を契機にエネルギー政策の在り方が見直され、省エネや再生可能エネルギー等の活用、さらに発電した電気を貯めて必要時に使用できる自立型エネルギーシステムの導入等が求められています。

このような状況の中、まず私たちができることは、エネルギーを少しでも無駄にしないこと、そしてライフスタイルを見直していくことです。地球温暖化は、地球規模の課題ではありますが、それぞれの家庭や事業所で、身近なところから行動していき、温室効果ガス排出量「実質0」を目指して取り組んでいくことが求められています。

本報告書では、市域から排出された温室効果ガス排出量の報告及び計画で重点的に進めるとした「長岡京市の8つの取組み」に対する市の取組みについて報告、評価を行っています。評価の特徴として、温室効果ガスの排出量の算出には、できるだけ本市固有の数値を用いるとともに、府や国の統計数値を按分するなどして身近な行動を反映できるようにしています。

世界や日本から見れば小さな本市の取組みですが、今後とも長岡京市生活環境審議会の委員の皆さまをはじめ、多くの市民、企業、諸団体の皆さまのご意見やご提案を反映し、温暖化対策を進めてまいります。

なお平成28年4月1日より長岡京市地球温暖化対策実行計画推進協議会は長岡京市生活環境審議会に統合されたことに伴い、今後は長岡京市生活環境審議会にて本計画の進捗管理を行ってまいります。

もくじ

●報告書について	1
●長岡京市域の温室効果ガスの排出量の現況	
1. 温室効果ガス総排出量の推移（排出係数変動）	2
2. 温室効果ガス総排出量の推移（排出係数固定）	3
3. 「長岡京市8つの取組み進捗管理表」の結果	4
4. 平成27年度「長岡京市8つの取組み」進捗状況まとめ	11
●目標指標の最終目標に対する評価	12
●長岡京市生活環境審議会の評価・意見および市の考え方	16
●資料	19

報告書について

進捗管理表の目的

本進捗管理表は、本市域の温室効果ガス削減目標の中でも、行政においてその取組みを推進または支援するための施策について進行状況を把握するためのものです。

管理表では、温暖化対策の主要項目の中でも CO₂排出量、家庭での電気とガスのエネルギー使用量を共通指標とし、その削減目標の達成を目指します。

また8つの取組みそれぞれの進捗状況を「目標指標」としてあわせて評価します。この「目標指標」については、必要があればより実質的な判断が可能なものに見直すこととします。

進捗管理表の目標及び確認年度

進捗管理表は、原則3年ごとに作成しますが、長岡京市第4次総合計画と足並みを揃えるため、2014（平成26）年度と2015（平成27）年度の2年間とし、以降は長岡京市第二期環境計画実施計画の計画期間と合わせます。本報告書の評価の対象年度は、「温暖化対策共通指標」が2013（平成25）年度分、「8つの取組み」の評価が、2015（平成27）年度分となります。

報告年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
温室効果ガスの報告年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
8つの取組み目標年度	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
進捗管理表改訂年度			○		○			○			○	

※「温暖化対策共通指標」については、算定に必要な統計データの取りまとめに時間を要することから2年前の確定値、1年前の速報値を掲載しています。

進捗管理表の見方・評価・見直し

年度ごとに進捗状況を評価し、公表します。評価は、下記のとおりです。

目標指標	現状値	各年度の目標値 (目標状況)	実行部門	進捗状況	進捗内容
目標の内容	・25年度現在の現状値	・目標値 ・数値で示せない場合は、目指すべき状況	主管する課等	年度終了後に目標に対して◎○△×で評価	進捗内容を文章で記載。(例：●月■日△△で省エネ診断実施。)

・事業の終了などに伴い、見直し

・「-」は、新規事業につき実績なし

・3年に1度見直し
・「-」は、事業継続につき検討中

<評価の目安>

	数値目標	定性の目標
◎	目標数値を達成	目標の状態に達している
○	目標数値の7割以上達成	目標の状態に完全には達していないがおおむね達成していると判断できる
△	目標数値の7割未満の達成	前年度より進捗している
×	目標に達するための取組みをしていない	前年度から取り組んでいない

長岡京市域の温室効果ガス排出量の現況

1. 平成25年度温室効果ガス総排出量の確定値・平成26年度速報値（排出係数変動）

※現在把握している最新の温室効果ガス排出量の確定値は平成25年度の数值となっています。

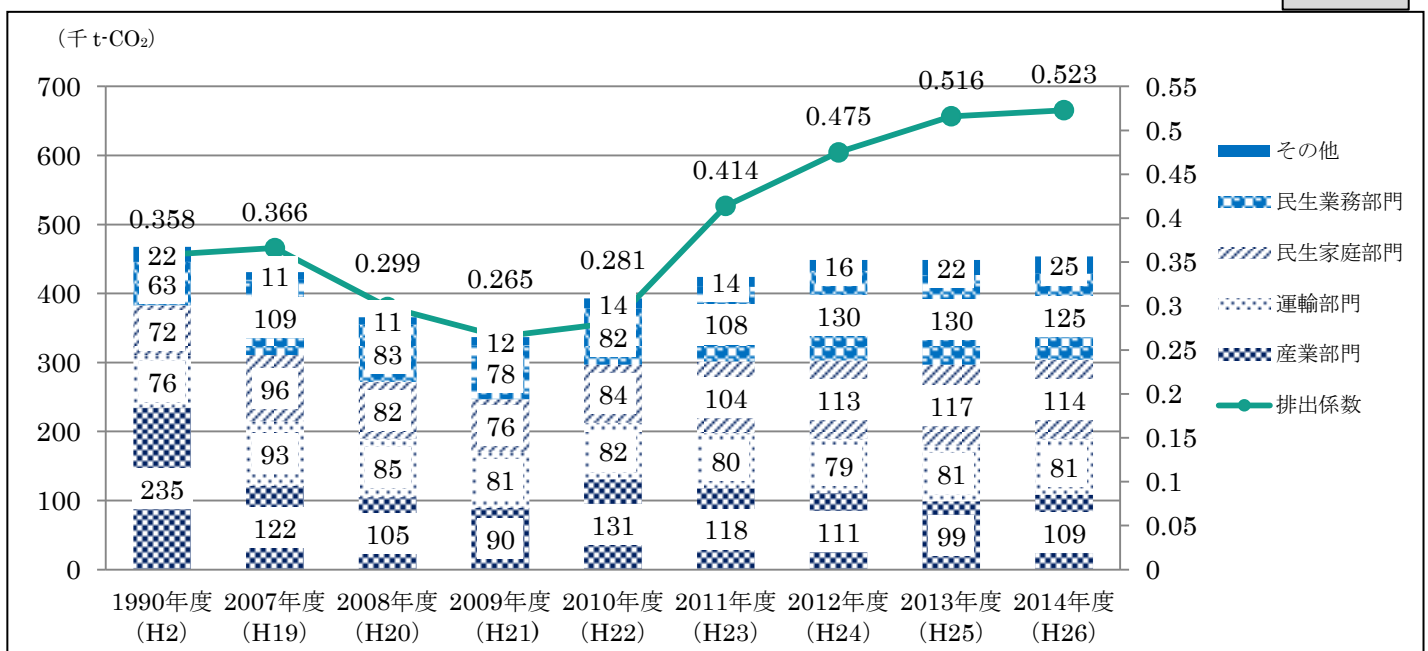
長岡京市の2013年度（平成25年度）の温室効果ガス排出量の確定値は、449千t-CO₂で、基準年度1990年度（平成2年度）比で4.1%削減され、昨年度と同じ排出量となりました。民生家庭部門においては電力使用量の減少の影響よりも排出係数の上昇の影響によって温室効果ガス排出量が増加しました。一方、産業部門では景気がゆるやかな回復基調をみせるなか、事業所の省エネ・節電の取組みにより温室効果ガス排出量が減少しています。今後も電気の排出係数の動向による影響が予想されますが、2020年度（平成32年度）までに25%削減という目標の達成に向けて、さらなる努力による着実な削減が必要です。

(千t-CO₂)

部門／年度	1990 (H2)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)
産業部門	235	122	105	90	131	118	111	99	109
運輸部門	76	93	85	81	82	80	79	81	81
民生家庭部門	72	96	82	76	84	104	113	117	114
民生業務部門	63	109	83	78	82	108	130	130	125
その他	22	11	11	12	14	14	16	22	25
合計	468	431	366	337	393	424	449	449	454
基準年度比	0%	-7.9%	-21.8%	-28.0%	-16.0%	-9.4%	-4.1%	-4.1%	-3.0%

図1 長岡京市域の温室効果ガス総排出量と排出係数の推移

速報値



※排出係数：電気をつくるときにどれだけの二酸化炭素を排出したかを推し測る指標。発電に使用する燃料によって変動します。詳しくはP. 16をご覧ください。

2. 平成25年度温室効果ガス総排出量の確定値・平成26年度速報値（排出係数固定）

排出係数に左右されずに排出量を比較するため、長岡京市の温室効果ガス排出量にかかる「排出係数」を2007年度（平成19年度：現況年度）に固定した数値を算出しています。

この数値により実質使用量の比較をすることができます。2008年度（平成20年度）から2009年度（平成21年度）にかけては、産業部門でリーマン・ショックによる景気後退等の影響で、全体的に排出量が減っています。2010年度（平成22年度）に経済の復調により若干増加しましたが、2011年度（平成23年度）以降は、東日本大震災の影響等で、実質の使用量は減少傾向で、ほぼ横ばいの状態となっています。

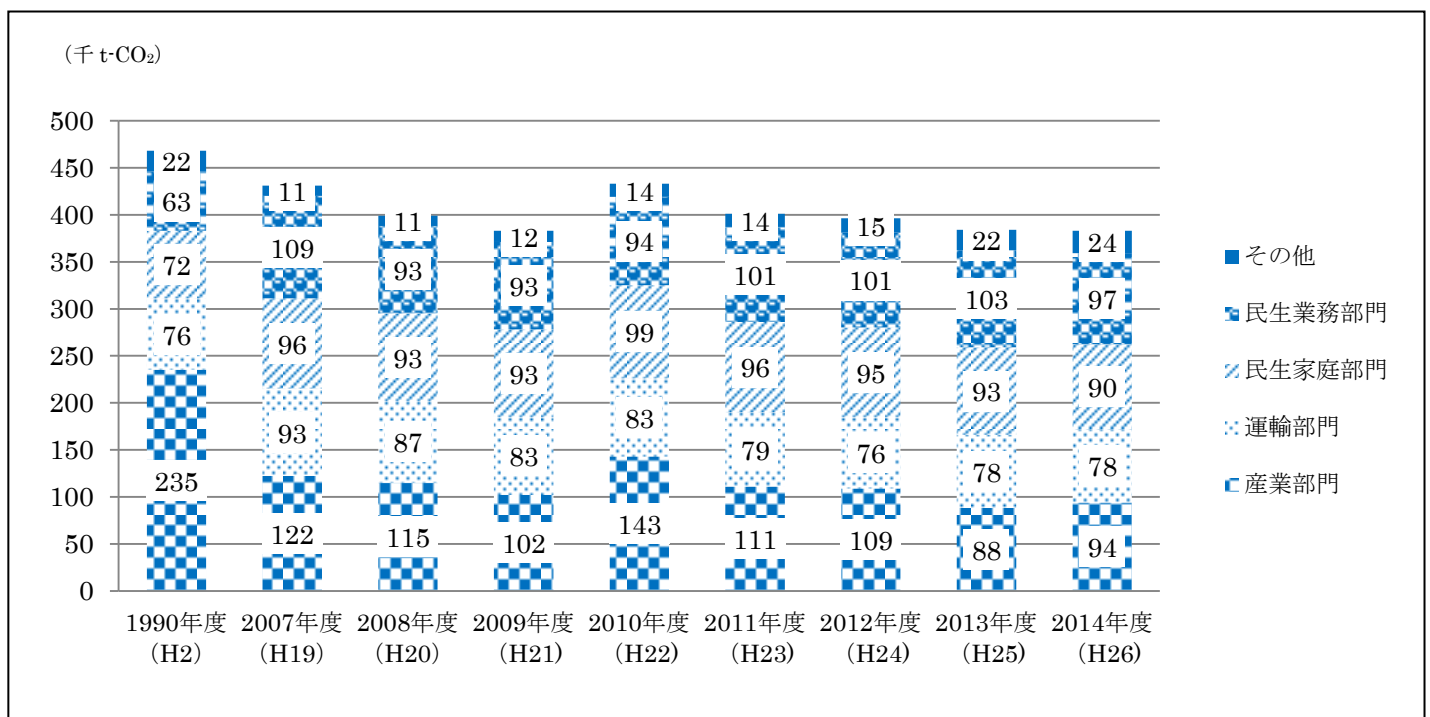
（千 t-CO₂）

部門／年度	1990 (H2)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)
産業部門	235	122	115	102	143	111	109	88	94
運輸部門	76	93	87	83	83	79	76	78	78
民生家庭部門	72	96	93	93	99	96	95	93	90
民生業務部門	63	109	93	93	94	101	101	103	97
その他	22	11	11	12	14	14	15	22	24
合計	468	431	399	383	433	401	396	384	383
2007年度比	—	0%	-7.4%	-11.1%	+0.5%	-7.0%	-8.1%	-10.9%	-11.1%
基準年度比	—	-7.9%	-14.8%	-18.2%	-7.5%	-14.3%	-15.4%	-17.9%	-18.2%

※排出量算定に必要な基礎データがある2007年度（平成19年度）からの推移になります。

速報値

図2 長岡京市域の温室効果ガス総排出量：排出係数を2007年度(平成19年度)の0.366に固定



3. 「長岡京市8つの取り組み進捗管理表」の結果

温暖化対策共通指標

目標指標	H23年度 現状値	H25年度 目標	実行部門	進捗 状況	H25年度の 進捗内容	H25年度 最終目標
市民1人あたりの CO ₂ 排出量（民生家庭部 門CO ₂ 排出量／人口）	1,302 kg-CO ₂	1,055.8 kg-CO ₂	環境政策監	×	1,462.6 kg-CO ₂	1,055.8 kg-CO ₂
市民1人あたりの電気 使用量（電灯使用量／人 口）	2,118kWh	前年度比 使用量減	環境政策監	◎	2,043kWh （前年度比 1.4%削減）	前年度比 使用量減
市民1人あたりの都市 ガス使用量（都市ガス使 用量／人口）	153.6 m ³	前年度比 使用量減	環境政策監	◎	149.8 m ³ （前年度比 3.0%削減）	前年度比 使用量減

*この指標は、前段の温室効果ガス排出量の算定根拠とした数値と合わせるため、2年度前を対象としています。

図3 市民1人あたりのCO₂排出量

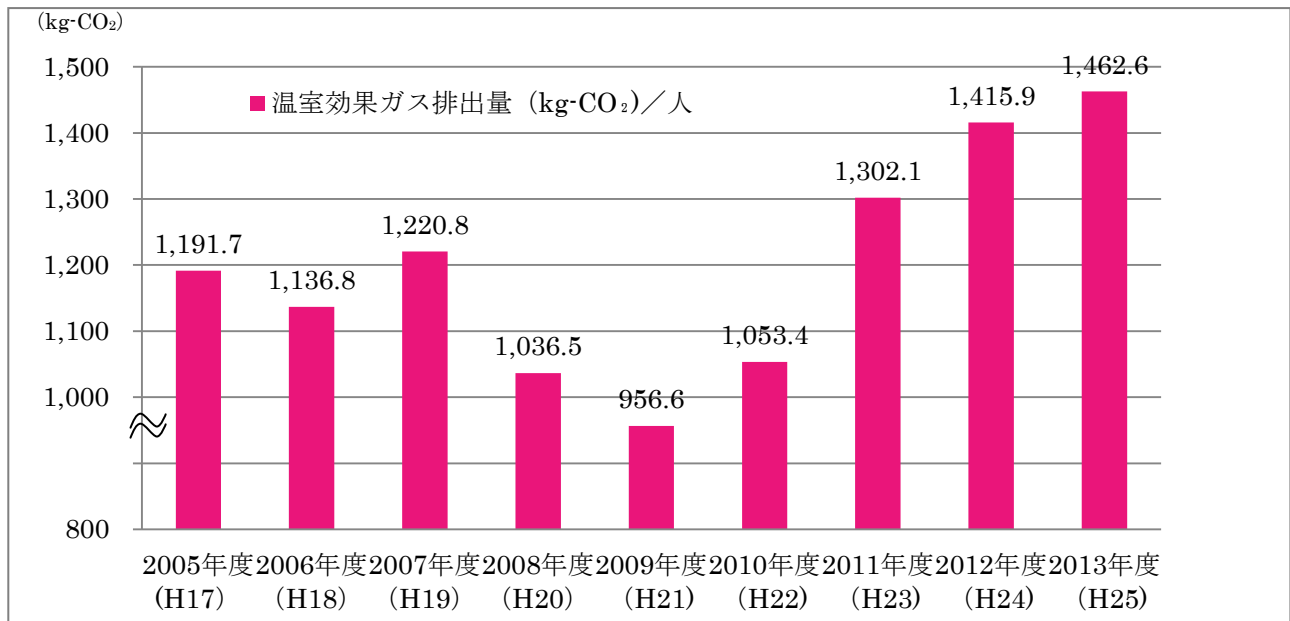


図4 市民1人あたりの電気使用量

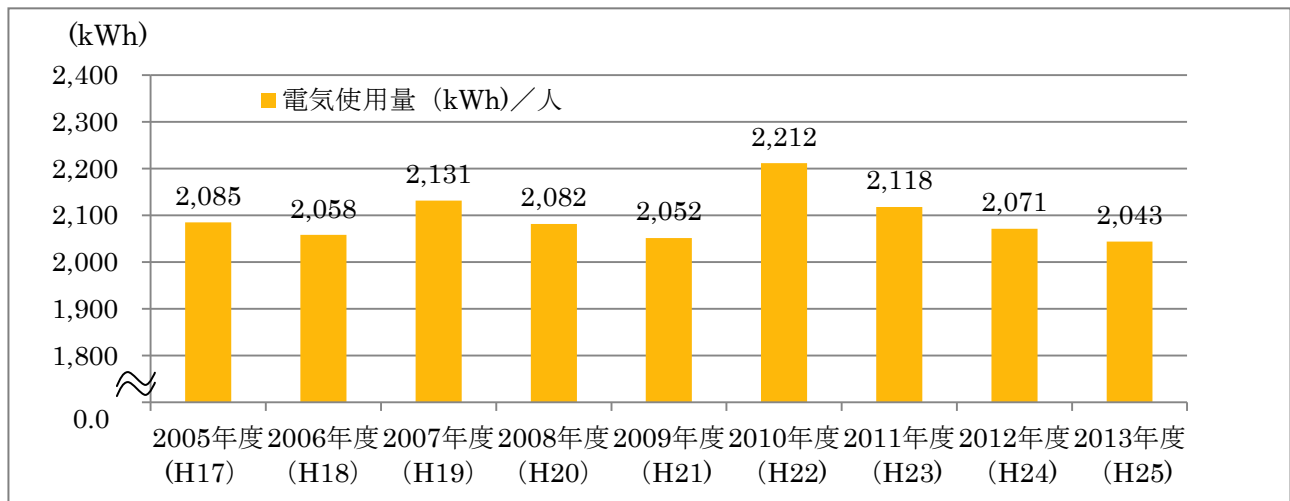
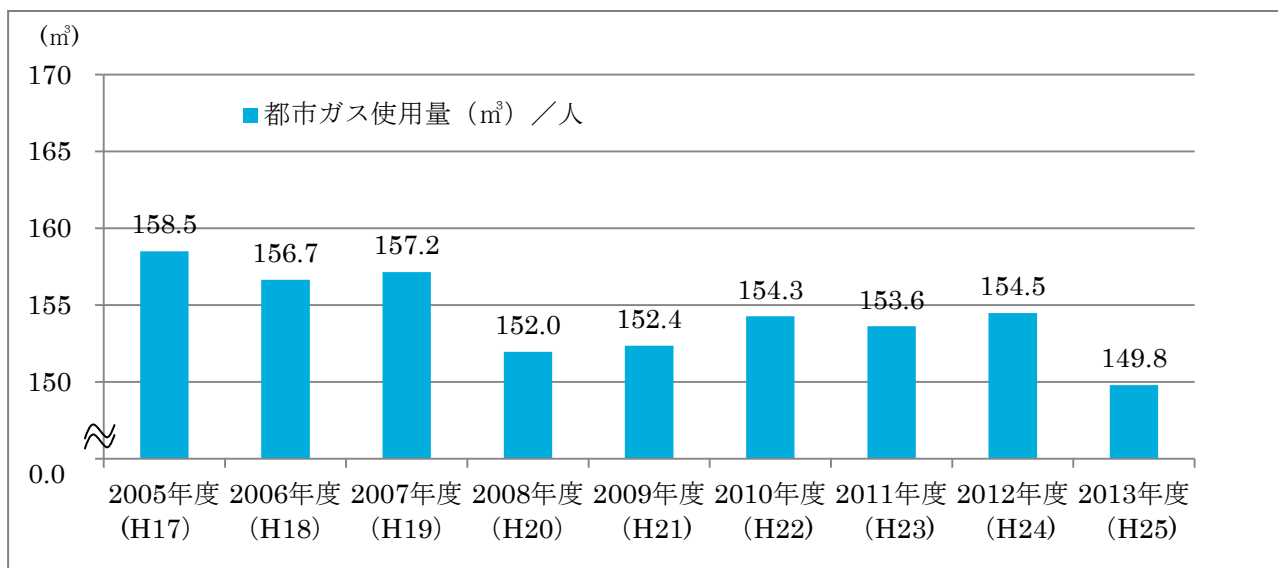


図5 市民1人あたりの都市ガス使用量



取組み1 機器や建築物等の省エネ・省CO₂化

主要課題	施策の方向性
1. 設備機器や建築物などの基礎エネルギー使用の低減	1. 省エネ住宅等の情報提供 2. 省エネ機器の比較の啓発
2. ビルや家庭でのエネルギー使用量の見える化	1. 見える化機器設置の普及拡大

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
省エネ住宅の情報提供回数	1回	1回	環境政策監	△	住宅エコリフォーム補助金制度の検討	1回
省エネ機器の情報提供回数	1回	2回	環境政策監	◎	2回 (環境フェアにてパネル等を展示、団体の会議で省エネナビの紹介)	2回
省エネナビ(※)を利用した省エネ診断の実施	—	省エネナビの利用世帯数延べ40世帯	環境政策監	○	省エネナビ利用世帯数延べ36世帯	省エネナビ利用世帯数延べ40世帯

※家庭の分電盤に取り付けて電気使用量を「見える化」する機器

取組み2 省エネ行動・エコライフの実践

主要課題	施策の方向性
1. 省エネ行動・エコライフの継続	1. 省エネ行動のモチベーション維持・支援 2. 省エネ行動による効果の周知・情報提供
2. 事業所・家庭での省エネ行動手法の獲得	1. 家庭での省エネ手法の普及 2. EMSの導入など環境に配慮された事務の普及

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
「うちエコ診断」、「省エネ診断」受診者数	99名	110名	環境政策監	◎	省エネ診断2回 (計148名) 6/16・57名 10/3・91名	110名
エコストアを活用した地域通貨の検討	他市事例検討	検討チームの立ち上げ	環境政策監	○	庁内検討会議開催 (環境政策監・環境業務課)	検討チームの立ち上げ
EMS(※)取得補助件数	累計4件	累計7件	環境政策監	◎	累計8件	累計7件

※環境マネジメントシステムの略

取組み3 循環型社会の推進

主要課題	施策の方向性
1. 資源物のリサイクルの推進	1. 各家庭での分別収集の推進
2. 間伐材資源の循環システムの確立	1. 間伐材の利活用の推進

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
資源物の再生利用量(※)	3,648t	4,071t	環境業務課	○	3,613t	4,071t
森林整備面積のうち利用間伐した面積	H25年度までに延べ7.27ha	1ha	農林振興課	◎	1.36ha (延べ10.14ha)	1ha
薪ストーブ購入助成件数	—	3件	環境政策監	△	0件	3件
西山産薪購入助成件数	—	1,000束	環境政策監	△	603束	1,000束

※集団回収している古紙・古繊維の回収量と乙訓環境衛生組合の再生利用量の合算。

取組み4 低公害車の利用

主要課題	施策の方向性
1. 低公害車の普及	1. 電気自動車や低公害車の率先導入による啓発

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
公用車の低公害車導入率（リース含む）	39.1%	40.0%以上	公用車保有課	◎	53.9%	40.0%以上
低公害車の情報提供回数	1回	1回	環境政策監	◎	アイドリングストップ啓発のぼりの掲出1回（12/11～12/25） 市ホームページでの情報提供（1/22～）	1回

取組み5 自転車や公共交通機関等の利用

主要課題	施策の方向性
1. 自家用自動車の利用低減	1. コミュニティバスの利便性向上による利用促進 2. パークアンドライドの推進

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
コミュニティバス利用者数	平成24年度比5.5%増 (50,248人)	平成24年度比10%増 (平成24年度利用者数47,627人)	交通対策課	◎	平成24年度比11.6%増 (53,142人)	平成24年度比10%増
パークアンドライド駐車場の利用台数 ※長岡駅西駐車場・西山天王山駅東駐車場	37,918台	前年度比利用増 (平成26年度利用台数47,580台)	交通対策課	○	前年度比0.9%減 (47,115台)	前年度比利用増

図6日産自動車から貸与を受けた電気自動車(低公害車)



図7はっぴいバス(コミュニティバス)



取組み6 再生可能エネルギーの導入

主要課題	施策の方向性
1. 再生可能エネルギーの導入推進	1. 太陽光発電システム導入支援 2. 再生可能エネルギーに関する情報の周知

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
太陽光発電システム設置補助件数	累計 296 件	累計 500 件	環境政策監	○	累計 491 件	累計 500 件
公共施設への太陽光発電システム設置件数	累計 7 箇所	累計 10 箇所	施設管理課	◎	累計 10 箇所	累計 10 箇所

表1 公共施設における太陽光発電システムの設置状況

<設置箇所>

施設名	設置年度	設置容量
バンビオ1番館	H17	10kW
バンビオ2番館	H17	30kW
東第二浄水場	H19	40kW
長法寺小学校	H20	0.912kW
長岡第七小学校	H22	30kW
長岡第九小学校	H22	4kW
長岡第十小学校	H22	4kW
長岡第五小学校	H26	15kW
神足小学校	H27	29.3kW
西代里山公園	H27	5.46kW

<設置予定箇所>

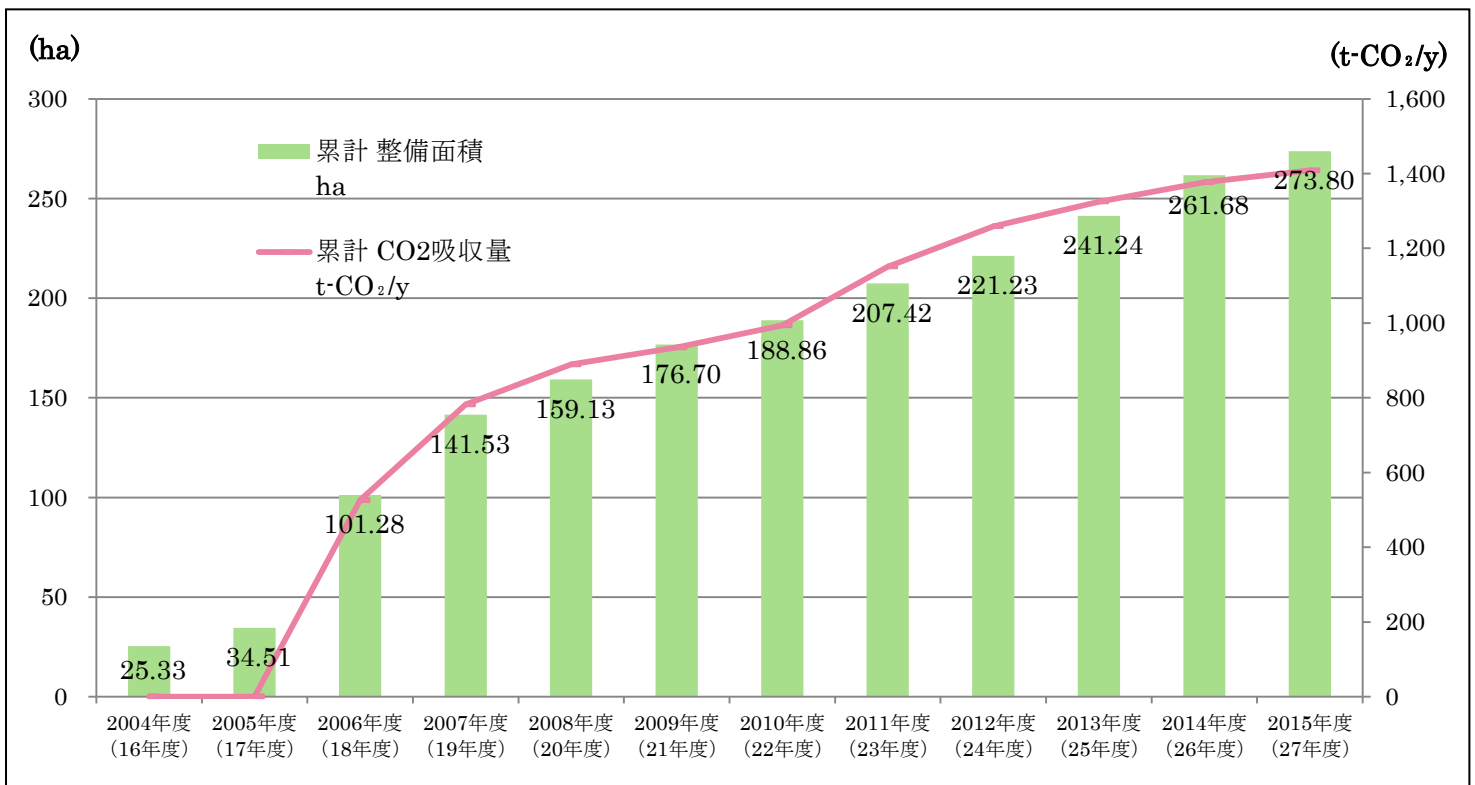
施設名	設置年度	設置容量
長岡第六小学校	H31(予定)	4kW

取組み7 緑化の推進や森林、農地の保全

主要課題	施策の方向性
1. 緑化の推進	1. 植樹等による緑地の拡大 2. 緑化・緑の保全活動に対する支援
2. 森林の保全	1. 西山森林整備面積の拡大による健全な森の育成
3. 農地の維持・保全	1. 生産緑地の保全による農地の保全

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
緑被面積	2,618 m ² (前年度比 +47 m ²)	200 m ² 増加	公園緑地課	△	56 m ² 増加 (延べ 2,725 m ²)	200 m ² 増加
西山森林整備延べ面積	241.24ha (前年度比 +20.01ha)	整備面積 10ha 以上	農林振興課	◎	12.12ha (延べ 273.8ha)	整備面積 10ha 以上
生産緑地面積	67.17ha (前年度比 -2.02ha)	維持保全	都市計画課	△	64.73ha (前年度比 -1.17ha)	維持保全

図8 西山森林整備面積とCO₂吸収量(累積値)



※森林整備によるCO₂吸収量は、整備した樹木の種類により異なるため、整備面積に比例しません。

取組み8 環境意識の向上

主要課題	施策の方向性
1. 環境問題に対する意識の向上	1. 体験を通じた環境意識の醸成 2. 環境学習の機会の提供 3. 環境活動に関する情報共有の場の提供

目標指標	H25年度 現状値	H27年度 目標	実行部門	進捗 状況	H27年度の 進捗内容	H27年度 最終目標
環境体験学習会の開催件数	西山ファミリー環境探検隊 4回実施	西山ファミリー環境探検隊 4回実施	環境政策監	◎	4回実施 (計149人参加) 4/29 (52人) 7/25 (35人) 10/18 (24人) 2/7 (38人)	西山ファミリー環境探検隊 4回実施
スターウォッチング・バードウォッチングなどの自然観察会の開催	3回実施 (スター2回・バード1回)	3回実施(スター2回・バード1回)	環境政策監	◎	・スターウォッチング2回(8/22、2/27) 計45名 ・バードウォッチング1回(3/5)19名	3回実施(スター2回・バード1回)
環境フェアへの参加団体数	参加団体 29団体	参加団体 30団体以上	環境政策監	◎	参加団体 32団体	参加団体30団体以上

図9 環境フェアの様子



西山探検めいろ



子ども環境フェスティバル



まちなみ絵はがきコンテスト



ステップアップ・チャレンジ会議

4. 平成27年度「長岡京市8つの取組み」進捗状況まとめ

本報告書における「温暖化対策共通指標」（温室効果ガス、電気、ガスの市民1人あたりの排出・使用量）の評価対象年度は、統計数値が揃う2年前のものとしており、今回の報告では平成25年度分となります。平成25年度は景気がゆるやかな回復基調をみせる中、東日本大震災後の原子力発電所の停止に伴う火力発電の増加によって電気の排出係数が上昇したため温室効果ガスの排出量を削減することはできませんでした。一方で市民1人あたりの電気使用量及び市民1人あたりの都市ガス使用量は削減され、家庭での省エネ行動が促進されたことがうかがえます。

8つの取組みの目標達成状況は、25項目中◎（達成）が14項目、○（7割以上達成）が5項目、△（7割未満の達成）が5項目、×（未達成）が1項目となりました。

唯一、×となったのは、電気の排出係数の上昇の影響を受けた「市民1人あたりのCO₂排出量」の項目です。この項目とは対照的に、「市民1人あたりの電気使用量」については、前年度比で△1.4%、市民1人あたり28kWh/年の削減を達成し、◎の評価となりました。CO₂排出量のエネルギー種別構成比で5割を占める電気の使用量について目標を達成したことは評価に値するものの、その削減努力を上回る排出係数の悪化により、CO₂排出量は前年度比で3.3%増加という結果となりました。今後も、エネルギー政策による排出係数の変動が予想されますが、引き続き、市域全体で省エネルギーの推進に取り組むことが重要です。また再生可能エネルギーの導入や電力小売自由化（平成28年4月1日開始）により環境にやさしい電気を選ぶなど、影響を受けている電気の排出係数を変えることも大切になってきます。

△となった項目は、「省エネ住宅の情報提供回数」、「薪ストーブ購入助成件数」、「西山産薪購入助成件数」、「緑被面積」、「生産緑地面積」の5項目でした。「省エネ住宅の情報提供回数」は住宅エコリフォーム補助制度の検討に留まり情報提供までは至りませんでした。「薪ストーブ」・「西山産薪」への助成件数は、冬場の気温が高かったこともあり伸び悩みました。「緑被面積」は、みどりのサーター制度等による植樹が積極的に行われたものの、面積で見ると微増にとどまり目標を達成できませんでした。「生産緑地面積」は農地を確保するために指定された生産緑地をできるだけ維持することを目標としていますが、高齢化や後継者不足等の事情により、前年度比で約1ha減少したことから△となりました。

○となった項目は、「省エネナビを利用した省エネ診断の実施」、「エコストアを活用した地域通貨の検討」、「資源物の再生利用量」、「パークアンドライド駐車場の利用台数」、「太陽光発電システム設置補助件数」の5項目でした。「資源物の再利用」は横ばいで推移しているため今後は古紙回収や給食の食品残渣のリサイクルの取組みに力を入れ、平成28年度からはリサイクル率で進捗管理を行います。

なお今後は平成28年3月に新たに策定した平成28～30年度の目標を見直しながら進捗管理に努めていきます。

目標指標の最終目標に対する評価

温暖化対策共通指標

(平成 25 年度確定値・平成 26 年度速報値)

電気の排出係数は平成 26 年度の 0.523 をピークとして平成 27 年度以降下がり始めています。温室効果ガスの排出量は電気によるものが全体の約 5 割を占めているため今後も電気の排出係数の動向を注視していきます。

家庭部門の電気使用量は減少傾向にあります。今後も省エネの啓発をしていきます。またガスの使用量は冬場の気温により変動しますが、減少傾向にあります。



取組み 1 機器や建築物等の省エネ・省 CO₂化

住宅エコリフォームについて情報収集し、平成 28 年度からは始める補助制度の検討を行いました。

また省エネナビの情報提供をするとともに、省エネナビモニター事業を実施し電気使用量 10%削減を目標に取り組みました。

今後も省エネナビモニター事業を継続するとともに、住宅エコリフォームの情報を発信し、住宅の環境性能の向上促進をはかります。



取組み 2 省エネ行動・エコライフの実践

関連部署で検討会議を行い、エコストアの活用について検討しました。エコストアの現状を把握し、実施内容については精査していく必要があります。

省エネ相談は環境の都づくり会議と EMS 取得補助は長岡京市商工会と連携しながら今後も取り組んでいきます。



取組み3 循環型社会の推進



資源物の再生利用量は横ばいで推移しています。ごみの最終処分場が近い将来満杯になることが見込まれるため、ごみ減量は喫緊の課題です。今後は古紙回収率を上げること、食品残渣の資源化の取組み（保育所2箇所から試験導入）を行い、リサイクル率の向上を目指します。

西山森林整備構想に基づき確実に森林整備を進め、整備して出た木材等は環境都市宣言看板や室名札等に利用しています。今後も計画に基づき整備・利用間伐を進めます。薪ストーブ設置補助及び西山産薪購入補助は平成26年度に制度を開始し好調な滑り出しをみせましたが、平成27年度の冬は暖かかったこともあり伸び悩みました。

取組み4 低公害車の利用

平成27年度は日産自動車から電気自動車の無償貸与を受け、市が保有する電気自動車は2台になりました。今後も公用車更新計画に基づき、公用車を購入するときは低公害車を導入していきます。

またアイドリングストップに特化して啓発を行っていましたが、「エコドライブ」についても啓発をはじめました。今後もホームページや広報紙などで環境にやさしい自動車や運転方法について情報を発信していきます。



取組み5 自転車や公共交通機関等の利用

市民の大切な公共交通手段である「はっぴいバス」の利用者数は平成18年の運行開始から9年が経過し、利用者は順調に増加しており、市民の足として定着してきました。

また自動車運転免許証の自主返納支援として「はっぴいバス回数券」を配布したり、イベントで利用啓発をしたりと今後も啓発を行っていきます。

パークアンドライド駐車場の利用台数は、パーク&ライド提携店舗が増えたことにより増加しています。



取組み6 再生可能エネルギーの導入

FIT（電力の固定価格買取）制度の普及などを背景に、太陽光発電システム設置助成件数は伸びており一定の普及が図られたため平成27年度を以って市の補助金制度を終了します。平成28年度からは太陽光発電システム・蓄電地を同時に設置された市民の方に対して補助制度を開始しています。

また公共施設の更新時にはできるだけエネルギー効率に配慮します。



取組み7 緑化の推進や森林、農地の保全



西山森林整備面積は、順調に進んでおり今後も西山森林整備構想に基づき着実に進めていきます。

緑被面積は面積が伸び悩んでいますが、中低木の植栽が多く1本あたりの面積が広くないことが要因として考えられます。

また生産緑地面積の維持保全は、高齢化や後継者不足等の理由により減少しています。

取組み8 環境意識の向上

市域の約4割を占める西山や小畑川など、本市は自然環境に恵まれています。自然と親しむ機会は多くありません。市では自然とふれあう機会を設け、体験を通じた環境意識の醸成を行っています。小さなお子様から高齢者までさまざまな年代の方が参加されています。

また環境フェアは年々参加を希望する事業所・団体が増えており、さまざまな環境活動の情報共有の場にもなっています。



表2 目標指標の最終目標に対する評価

取組み	目標指標	評価
共通	市民1人あたりのCO2排出量(民生家庭部門CO2排出量/人口)	×
	市民1人あたりの電気使用量(電灯使用量/人口)	◎
	市民1人あたりの都市ガス使用量(都市ガス使用量/人口)	◎
取組み1	省エネ住宅の情報提供回数	△
	省エネ機器の情報提供回数	◎
	省エネナビを利用した省エネ診断の実施	○
取組み2	「うちエコ診断」、「省エネ診断」受診者数	◎
	エコストアを活用した地域通貨の検討	○
	EMS取得補助件数	◎
取組み3	資源物の再生利用量	○
	森林整備面積のうち利用間伐した面積	◎
	薪ストーブ購入助成件数	△
	西山産薪購入助成件数	△
取組み4	公用車の低公害車導入率(リース含む)	◎
	低公害車の情報提供回数	◎
取組み5	コミュニティバス利用者数	◎
	パークアンドライド駐車場の利用台数	○
取組み6	太陽光発電システム設置補助件数	○
	公共施設への太陽光発電システム設置件数	◎
取組み7	緑被面積	△
	西山森林整備延べ面積	◎
	生産緑地面積	△
取組み8	環境体験学習会の開催件数	◎
	スターウォッチング・バードウォッチングなどの自然観察会の開催	◎
	環境フェアへの参加団体数	◎

長岡京市生活環境審議会の評価・意見および市の考え方

長岡京市では、本計画を策定および進捗管理を行う際に、意見を求めるため「長岡京市生活環境審議会」を設置しています。この審議会には、市民や事業者、諸団体と行政の委員が参加し、PDCAサイクル（計画し、実行し、チェックし、改善する仕組み）を運用しています。本計画の取組み主体は行政ですが、それを行政自身で評価するのではなく、多様な主体が加わって評価します。

これにより行政以外の視点でチェックをし、取組みを改善していくことができます。この章では、審議会委員からの評価と意見をまとめるとともに、市の考え方について報告します。

※以下、協議事項を記載

薪ストーブ及び薪購入補助金

委員意見
京都府立大学ACTR薪のネットワーク研究会の事業の一環として薪ストーブユーザを対象としてアンケート調査を実施した。薪ストーブ設置補助件数が平成27年度は0件だったが、平成28年度は3件となっている。長岡京市は西山の森林整備や学校や公共施設などへの薪ストーブの設置に積極的に取組み、薪の購入補助については府内で唯一の取組みとなっている。
市の考え方
【平成28年度の補助件数】 薪ストーブ設置補助：3件、薪購入補助：848束

電気の排出係数

委員意見
電気の排出係数とは何か。またどのような要因で変動するのか。
市の考え方
排出係数は電気をつくるときにどれだけの二酸化炭素を排出したかを推し測る指標であり、発電に使用する燃料によって変動します。またガス・石油・石炭の順で二酸化炭素排出量が増加し、東日本大震災後は二酸化炭素排出量が多い石炭火力発電所の稼働が増えたため、排出係数が上昇している。

集団回収の取組み

委員意見

普段の生活のなかで可燃ごみ収集日に段ボールが捨てられていることが多々ある。広報長岡京でごみ処分場の問題が連載されているが具体的な取組みについては書かれていない。段ボールの集団回収はすぐに取り組めるのではないか。

市の考え方

平成29年3月に一般廃棄物等処理基本計画を改定し、古紙集団回収に力を入れる方針を示した。現在、自治会や子ども会などの団体が集団回収を実施しているが、団体に所属していない人は可燃ごみで出されていると思われる。そこで、集団回収の促進地域活動の一環として、自治会・子ども会及びその他市民団体が実施している資源ごみ集団回収事業に対しての支援を継続するとともに、より多くの市民が利用しやすい資源ごみの回収拠点としての新たな役割をお願いしている。また、中小企業等を対象に自社でのリサイクルの取組みに加えて、集団回収や市役所の拠点回収の利用を呼び掛け、事業系の紙ごみの削減も推進する。

地球温暖化対策

委員意見

コベネフィットという言葉があり、地球温暖化対策を行うことで命を守る、生活支援（福祉）、地域経済につながることもある一石二鳥と似た考え方である。地球温暖化対策と聞くと何かしなければいけないとおっくうになってしまいがちだが、対策を行うことでこんないいことがありますよといった取組むことに前向きになれるような視点を入れてほしい。また国の区域施策編策定マニュアルも参考にしてほしい。

市の考え方

本市でも住宅の断熱について重要視しており、平成28年度に実施した環境講演会では住宅エコリフォームをテーマに健康と断熱について講演会を開催した。平成28年7月には住宅エコリフォーム補助金を開始している。我慢する省エネから視点を変えて市民の方にも取り組んでもらえるよう広報するときには健康にも地球にもやさしいことをアピールしていきたい。またステップアップ・チャレンジ会議のプロジェクトで省エネナビモニター事業を実施しており、“楽しく省エネ”をテーマに取り組んでおり、このような取り組みを広げていきたい。

緑被面積

委員意見

事業者や市民の緑化に対する努力が求められる。

市の考え方

進行管理においては、公園緑地課が把握している緑被面積で評価を実施する。

エコストア

委員意見

エコストアの普及や増大、利活用などを追及することと、地域通貨を使って認知度が高まっていく方向としたいことについて検討が進んでいないということの、両方があると思う。

市の考え方

エコストアの見直しは進んでいないのが現状である。委員意見を踏まえ、どこかのタイミングでエコストアの認定を検討したい。

食品ロス削減

委員意見

食品ロスを削減し、食品残渣を出さないための取組みとしてフードバンク長岡京を立ち上げ、みんなのぼけっと（こども食堂）に取り組んでいる。

市の考え方

本市環境フェアの会場でもフードバンクの受付をしていただいた。場所の提供など市もできる範囲で携わっていく。

生産緑地の有効活用

委員意見

生産緑地面積が高齢化等の原因により減少していますが、エコ農園など農作業をしたい市民のニーズは多いため、そういった人が農作業ができるといった活用方法を検討してほしい。

市の考え方

生産緑地の農地を市が借り上げ、市民農園として市民の方へ貸出す場合、その期間本人の意思で処分ができないといったことが生じる。また納税猶予を受けている場合は自作する必要があるため、こういったことを踏まえながら検討していきます。

資料**温室効果ガス排出量の算出のために使用している主な数値**

温室効果ガス排出量の算出にあたっては、下記のような主要な数値を市独自の統計または府や国の統計から、把握し算定のために利用しています。

本市では、さまざまな統計値から排出量を算定し、取組みによる成果が見えやすいように工夫しています。

部門	統計値
共通に利用する値	市内の電力消費量
	市内の都市ガス消費量
	都道府県別エネルギー消費量
	電気、ガスなど各種エネルギーの排出係数
	灯油、重油など各種燃料の発熱量・排出係数
産業部門で使用する値	農林水産業の市町村内総生産
	建設業の市町村内総生産
	製造出荷額
	市内大規模事業所アンケート
運輸部門で使用する値	燃料消費量
	乗用車・貨物車・乗合・軽自動車保有台数
	燃料別保有台数
	鉄道の電力消費量
	L P G消費量
民生業務部門で使用する値	第3次産業市町村内総生産
民生家庭部門で使用する値	長岡京市人口
	長岡京市世帯数
	市内の電灯消費量
	L P G購入量
	灯油購入量
その他部門で使用する値	Fガス社会ストック量
	P P S電力販売量